

琉球大学学術リポジトリ

小学生の人物描画における表情分析

－4つの感情と眉・目・口の描き方パターンとの関連

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2012-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平田, 幹夫, 比嘉, 紀枝, HIRATA, Mikio, HIGA, Norie メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25517

小学生の人物描画における表情分析 — 4つの感情と眉・目・口の描き方パターンとの関連—

平田 幹夫* 比嘉 紀枝**

Expression Analysis on Person Drawing of Elementary School Children : Relationships between Four Feelings And Drawing Patterns of Eyebrows, Eyes, and a Mouth.

Mikio HIRATA and Norie HIGA

描画を解釈する際に、顔の表情は最も信頼できるサインのひとつである。しかし、描画上の人物の顔の表情を解釈する指標に関して十分な検討がなされていない。そこで、本研究では、特に4つの感情（「楽しい・うれしい」、「かなしい」、「おこっている」、「がまんしている」）に対して、顔のパーツである「眉」・「目」・「口」を児童がどのように描くかを明らかにすることを目的とした。小学校3年生から6年生の児童242名の描画を分析した結果、4つの感情に対する顔の表情描画のパーツ（眉、目、口）は、その形状から、「眉」は6カテゴリ、「目」は12カテゴリ、「口」は6カテゴリに分類されることが示唆された。「楽しい・うれしい」感情では、「眉」は弓眉、「目」は瞳正面・弓線上、「口」は開口・閉笑口が描かれる傾向にあることが示唆された。「かなしい」感情では、「眉」は弓眉・下がり眉、「目」は瞳正面・弓線下、「口」はへの字口が描かれる傾向にあることが示唆された。「おこっている」感情では、「眉」は上がり眉、「目」は瞳正面、「口」はへの字口・開口が描かれる傾向にあることが示唆された。「がまんしている」感情では、「眉」は弓眉・上がり眉・水平眉、「目」は口は瞳正面、水平線口・への字口・開口が描かれる傾向にあることが示唆された。本研究の結果は十分ではないが、描画における顔の表情を分析する際の指標になり得るのではないかと考える。

【背景と目的】

子どもの心理療法場面において、言語による表現が苦手な子どもにとっては描画テストは有効である。人物描画の中でも特に顔に付加される表情は、直接的に様々な感情を表出するので、解釈における重要な指標ととらえることができる。これまでの人物画の顔の表情に関する先行研究では、顔の省略は低い自己概念や自己同一

性を示す(Burns & Kaufman, 2000; 加藤, 1986)、顔をぬりつぶす場合は、否定や拒否を表現する(東山・東山, 1999)、両眼の省略は不安感を示す(Leibowitz, 1999)、目に瞳の記入のないものは、見たくない気分を表している(深田, 1991)。

しかし、従来の表情解釈に関する先行研究は臨床経験をもとにして述べていることが多い。これまでの描画研究は臨床的検討が多く、客観

* 琉球大学教育学部

** 沖縄国際大学キャンパス相談室

的な基準を設けることが難しいとされてきた(橋本, 2004)。しかし, 描画研究は, 臨床的知見にさらに統計的知見を加味して検討することを視野に入れることが必要である。

描画を解釈する際に, 顔の表情が最も信頼できるサインのひとつ(Machover, 1949)とされながらも, 描画における人物の顔の表情に関する分析や解釈については十分な検討がなされているとは言い難い。そこで, 描画上の人物の顔の表情分析を行い, そこから描画者の感情が予測できるような客観的な指標を作成する必要がある。そのような指標があると, 教師が子どもの描画から子どもの心情を理解することがこれまでより多面的になり, より適切な関わりができるようになると考えられる。

Ekman and Friesen(1988)は, 感情を表す人の表情には, 「幸福」・「悲しみ」・「驚き」・「恐怖」・「怒り」・「嫌悪」の基本的な6つ感情があると述べ, 実際の人の顔の表情写真からその特徴を明らかにしている。しかし, 描画において6つの感情を子どもが表現することはかなり難しいことである。そこで, 本研究では, 児童がイメージしやすい4つの感情(「楽しい・うれしい」, 「かなしい」, 「おこっている」, 「がまんしている」)に対して, 児童がどのような人物画を描くかを明らかにすることである。特に, 人物の4つの感情の顔描画において「眉」・「目」・「口」の描き方に焦点を当て, その特徴を明らかにし, 描画における子どもの感情理解の指標作成を行うことである。

【方 法】

1. 調査対象者

調査対象者は, B小学校3年生39名(男子20名, 女子19名), 4年生60名(男子20名, 女子19名), 5年生79名(男子37名, 女子42名), 6年生64名(男子30名, 女子34名)であった。性別不明の8名のデータを除き, 分析可能な242名(男子122名, 女子120名)の回答をもとに分析を行った。

2. 調査時期

平成20年9月から10月で実施した。

3. 手続き

材料は, 予備調査を経て作成された独自の表情描画調査用紙(Appendix 1)及びボールペン(pentel.e-ball BK130 中1.0)であった。

データの取り扱いや調査内容の説明を担当におこない, 了解が得られたクラスに対して担任による集団一斉実施がおこなわれた。「次の①, ②, ③, ④の顔の絵には 眉, 目, 口が描かれていません。それぞれの気持ちの顔になるように ボールペンで眉, 目, 口 を描いて下さい。描くときには隣の友達のものを見ないようにして下さい。」という教示のもと, 集団一斉実施でおこなわれた。

【結 果】

1. 4つの感情における顔の表情描画パーツ(眉, 目, 口)の分類

分析可能な調査対象者242名の4つの感情(「楽しい・うれしい」, 「かなしい」, 「おこっている」, 「がまんしている」)に対する顔の表情描画のパーツ(眉, 目, 口)をその形状から分類をおこなった。




その結果, 「眉」は6カテゴリ, 「目」は12カテゴリ, 「口」は6カテゴリに分類された(Figure 1)







2. 4つの感情と顔の表情パーツ(眉, 目, 口)との関連

(1) 4つの感情と「眉」の描き方 (Table 1)

①「楽しい・うれしい」表情では, 「弓眉」(203名, 84%)が最も多く描かれた。②「かなしい」表情では, 「弓眉」(101名, 42%)と「下がり眉」(101名, 42%)が最も多く描かれた。③「おこっている表情」では「上がり眉」(180名, 74%)が最も多く描かれた。④「がまんしている」では「弓眉」(79名, 39%)が最も多く描かれた。そこで, 4つの感情と「眉」の描き方とは関連がないことを帰無仮説として, カイ二乗検定を行った。その結果, 4つの感情のすべてにおいて0.1%水準で分布に有意な偏りが認められた (Table 1)。このことから4つの感情と「眉」の描き方には関連がみられることが示唆された。

Figure 1 顔の表情描画のパーツ（眉，目，口）の分類

眉	1	2	3	4	5	6
						なし
	弓眉	水平眉	上がり眉	下がり眉	波型眉	なし

目	1	2	3	4	5	6
						
	瞳正面	瞳上	瞳下	瞳左右	瞳なし	弓線上
	7	8	9	10	11	12
						なし
	弓線下	水平線目	上がり線目	下がり線目	波線目	なし


口	1	2	3	4	5	6
						なし
	開口	閉笑口	水平線口	への字口	波型口	なし

Table 1 4つの感情と「眉」の描き方に関するカイ二乗検定結果

感情	全体 (N=242)				検定結果	
	描き方	度数	(%)	残差	χ^2	p
①楽しい・うれしい	弓眉	203	(83.9)	162.7	790.893	.000***
	水平眉	13	(5.4)	-27.3		
	上がり眉	9	(3.7)	-31.3		
	下がり眉	14	(5.8)	-26.3		
	波型眉	1	(.4)	-39.3		
	なし	2	(.8)	-38.3		
②かなしい	弓眉	101	(41.7)	52.6	192.256	.000***
	水平眉	16	(6.6)	-32.4		
	上がり眉	18	(7.4)	-30.4		
	下がり眉	101	(41.7)	52.6		
	波型眉	0	(.0)	—		
	なし	6	(2.5)	-42.4		
③おこっている	弓眉	35	(14.5)	5.3	597.335	.000***
	水平眉	8	(3.3)	-32.3		
	上がり眉	180	(74.4)	139.7		
	下がり眉	8	(3.3)	-32.3		
	波型眉	1	(.4)	-39.3		
	なし	10	(4.1)	-30.3		
④がまんしている	弓眉	79	(32.6)	38.7	70.843	.000***
	水平眉	44	(18.2)	3.7		
	上がり眉	51	(21.1)	10.7		
	下がり眉	36	(14.9)	-4.3		
	波型眉	12	(5.0)	-28.3		
	なし	20	(8.3)	-20.3		

*** $p < .001$

(2) 4つの感情と「目」の描き方 (Table 2)

①「楽しい・うれしい」においては「瞳正面」(171名, 70.7%), 「弓線上」(60名, 24.8%), ②「かなしい」においては「瞳正面」(114名, 47.1%), 「弓線下」(55名, 22.7%), 「瞳下」(37名, 15.3%) ③「おこっている」においては「瞳正面」(175名, 72.3%), ④「がまんしている」においては「瞳正面」(161名, 66.5%)で

あった。すべての感情で「瞳正面」は最も多く描かれた。

そこで、4つの感情と「目」の描き方とは関連がないことを帰無仮説として、カイ二乗検定を行った。その結果、4つの感情のすべてにおいて0.1%水準で分布に有意な偏りが認められた(Table 2)。このことから4つの感情と「目」の描き方には関連がみられることが示唆された。

Table 2 各感情と「目」の描き方に関するカイ検定結果

感情	全体(N=242)			検定結果	
	描き方	度数	(%)	残差	χ^2 p
①楽しい・うれしい	瞳正面	171	(70.7)	136.4	708.959 .000***
	瞳上	5	(2.1)	-29.6	
	瞳下	2	(.8)	-32.6	
	瞳左右	1	(.4)	-33.6	
	瞳左なし	2	(.8)	-32.6	
	弓線上上下下	60	(24.8)	25.4	
	弓線水平	0	(.0)	—	
	水上がり	0	(.0)	—	
	水下がり	1	(.4)	-33.6	
	波型	0	(.0)	—	
	な	0	(.0)	—	
②かなしい	瞳正面	114	(47.1)	89.8	485.851 .000***
	瞳上	6	(2.5)	-18.2	
	瞳下	37	(15.3)	12.8	
	瞳左右	5	(2.1)	-19.2	
	瞳左なし	5	(2.1)	-19.2	
	弓線上上下下	3	(1.2)	-21.2	
	弓線水平	55	(22.7)	30.8	
	水上がり	8	(3.3)	-16.2	
	水下がり	0	(.0)	—	
	波型	8	(3.3)	-16.2	
	な	0	(.0)	—	
③おこっている	瞳正面	175	(72.3)	144.8	798.926 .000***
	瞳上	10	(4.1)	-20.3	
	瞳下	15	(6.2)	-15.3	
	瞳左右	14	(5.8)	-16.3	
	瞳左なし	4	(1.7)	-26.3	
	弓線上上下下	0	(.0)	—	
	弓線水平	0	(.0)	—	
	水上がり	1	(.4)	-29.3	
	水下がり	17	(7.0)	-13.3	
	波型	0	(.0)	—	
	な	6	(2.5)	-24.3	
④がまんしている	瞳正面	161	(66.5)	140.8	1084.149 .000***
	瞳上	11	(4.5)	-9.2	
	瞳下	14	(5.8)	-6.2	
	瞳左右	7	(2.9)	-13.2	
	瞳左なし	6	(2.5)	-14.2	
	弓線上上下下	1	(.4)	-19.2	
	弓線水平	13	(5.4)	-7.2	
	水上がり	7	(2.9)	-13.2	
	水下がり	2	(.8)	-18.2	
	波型	2	(.8)	-18.2	
	な	5	(2.1)	-15.2	
	13	(5.4)	-7.2		

*** $p < .001$

(3) 4つの感情と「口」の描き方 (Table 3)

①「楽しい・うれしい」では、「開口」(157名, 64.9%)が最も多く描かれ、次に「閉笑口」(79名, 32.6%)が多く描かれていた。②「かなしい」では「への字口」(117名, 48%)が最も多く描かれ、次に「水平線口」(55名, 22.7%)であった。③「おこっている」では、「への字口」(107名, 44.2%)が最も多く描かれ、次に「開口」(86名, 35.5%)が多く描かれた。④「がまんしている」では「水平線口」(83名, 3

4.3%)が最も多く描かれ、次に「への字口」(53名, 21.9%),「開口」(43名, 17.8%)が描かれていた。

そこで、4つの感情と「口」の描き方とは関連がないことを帰無仮説として、カイ二乗検定を行った。その結果、4つの感情のすべてにおいて0.1%水準で分布に有意な偏りが認められた(Table 3)。このことから4つの感情と「口」の描き方には関連があることが示唆された。

Table 3 各感情と「口」の描き方に関するカイ検定結果

感情	全体(N=242)			検定結果		
	描き方	度数	(%)	残差	χ^2	p
①楽しい・うれしい	開口	157	(64.9)	96.5	269.008	.000***
	閉笑口	79	(32.6)	18.5		
	水平線口	5	(2.1)	-55.5		
	への字口	1	(.4)	-59.5		
	波型口	0	(.0)	—		
	なし	0	(.0)	—		
②かなしい	開口	35	(14.5)	-5.3	215.884	.000***
	閉笑口	18	(7.4)	-22.3		
	水平線口	55	(22.7)	14.7		
	への字口	117	(48.3)	76.7		
	波型口	14	(5.8)	-26.3		
	なし	3	(1.2)	-37.3		
③おこっている	開口	86	(35.5)	45.7	253.124	.000***
	閉笑口	12	(5.0)	-28.3		
	水平線口	31	(12.8)	-9.3		
	への字口	107	(44.2)	66.7		
	波型口	2	(.8)	-38.3		
	なし	4	(1.7)	-36.3		
④がまんしている	開口	43	(17.8)	2.7	86.612	.000***
	閉笑口	13	(5.4)	-27.3		
	水平線口	83	(34.3)	42.7		
	への字口	53	(21.9)	12.7		
	波型口	37	(15.3)	-3.3		
	なし	13	(5.4)	-27.3		

*** $p < .001$

【考察】

本研究では、人物画の顔描画において4つの感情（「楽しい・うれしい」、「かなしい」、「おこっている」、「がまんしている」）と、4つの感情に対して児童が描いた顔描画の「眉」・「目」・「口」の特徴を明らかにし、指標作成をおこなった。

① 4つの感情と表情パーツとの関連

はじめに、①「楽しい・うれしい」、②「かなしい」、③「おこっている」、④「がまんしている」の4つの感情と描かれた表情パーツに関連があるのか検定したところ、すべての項目で0.1%で有意な差がみられた。すなわち4つの感情を描く際に出現しやすいパーツがあることが示唆された。

「眉」(Figure 2)については、①「楽しい・うれしい」表情において「弓眉」が最も多く描

Figure 2 4つの感情における表情描画の分析指標

感情	描画特徴 ※()=度数	表情描画			
①「楽しい・うれしい」	表情は笑顔		弓眉 瞳正面 開口		弓眉 瞳正面 閉笑口
	眉…弓眉(203) 目…瞳正面(171) 弓線上(60) 口…開口(151) 閉笑口(79)		弓眉 弓線上 開口		弓眉 弓線上 閉笑口
②「かなしい」	眉…弓眉(101) 下がり眉(101) 目…瞳正面(114) 弓線下(55) 口…への字口(117)		弓眉 瞳正面 への字口		弓眉 弓線下目 への字口
			下がり眉 瞳正面 への字口		下がり眉 弓線下目 への字口
③「おこっている」	表情は怒り 眉…上がり眉(130) 目…瞳正面(175) 口…への字口(107) 開口(86)		上がり眉 瞳正面 への字口		上がり眉 瞳正面 開口
④「がまんしている」	眉…弓眉(79) 上がり眉(51) 水平眉(44) 目…瞳正面(161) 口…水平線口(83) への字口(53) 開口(43)		弓眉 瞳正面 水平線口		弓眉 瞳正面 への字口
			弓眉 瞳正面 への字口		弓眉 瞳正面 開口
			水平眉 瞳正面 水平線口		水平眉 瞳正面 への字口

かれた。また、「弓眉」は③「おこっている」表情を除き、他の3つの感情に出現するため、眉の基本的形であると考えられる。②「かなしい」表情では「弓眉」と「下がり眉」共に最も多く描かれた。他の表情描画との違いは「下がり眉」の出現である。眉を下げて描くことでうつつむいて悲しむところを表現していると考えら

れる。③「おこっている」表情では「上がり眉」が最も多く描かれた。④「がまんしている」では「弓眉」が最も多く描かれた。しかし、「水平眉」や「下がり眉」の出現もあり、4つの感情の中で最も多様な表現がされることが示唆された。「がまんしている」表情は、Ekman & Friesen(1988)の「感情の抑制」に当たり、「怒

り」や「驚き」「悲しみ」など多様な感情を抑制する表現がされたことと関係していると考えられる。それゆえ、4つの感情の中では最も表現にばらつきが出たと考えられる。

「目」(Table 2)については、すべての感情で「瞳正面」が最も多く描かれた。「瞳正面」は目の基本的な描き方だと考えられる。それ以外の目の描き方の特徴として①「楽しい・うれしい」表情では「弓線上」の度数が多く、逆に②「かなしい」では、「弓線下」が多く描かれることが明になった。また、②「かなしい」では下向き視線である「瞳下」と「弓線下」が描かれていた。

「口」(Table 3)については、①「楽しい・うれしい」では、「開口」が最も多く描かれ、次に「閉笑口」が多く描かれていた。これは感情の強弱の差であると考えられる。②「かなしい」では「への字口」が最も多く描かれた。これは、悲しみをこらえる表現として描かれたと思われる。③「おこっている」では、「への字口」が最も多く描かれ、次に「開口」が多く描かれた。「への字口」は怒りを抑えようとする場合に描かれ、「開口」は怒りを言葉で表出する(Ekman & Friesen, 1988)イメージで描かれたと考えられる。④「がまんしている」では「水平線口」が最も多く描かれていた。これは、口元に力が入り感情を抑制する表情になると思われる。

これにより、描画上の人物の顔の表情と感情との関連は、実際の人物の表情と感情の関連と類似することが示唆された。

本研究によって、描画解釈における表情分析の目安となる指標を十分ではないがある程度明

らかにすることができたといえよう。今後は、今回の研究が描画における表情分析指標になり得るかを検討するために、信頼性・妥当性の検討をする必要がある。

引用文献

- Ekman P. , Friesen W.V. (1975). *Unmasking the face* Englewood cliffs,N.J.,prentice-hall
工藤 力
(訳) (編) 1988 表情分析入門 表情に隠された意味をさぐる 誠信書房
- 深田尚彦 (1991). 家族画と文化差 臨床描画研究 Annex3—描画を読むための理論背景— pp.147—165. 金剛出版
- 深田直彦 (1991). 人物画テスト 家族画研究会(編) 臨床描画研究 I 金剛出版 pp.12—32.
- 橋本秀美 (2004). 描画研究と描画にみられる共感性を捉える尺度の開発 応用教育心理学研究, 20(2), 12—21.
- 加藤孝正 (1986). 動的家族画(KFD) 家族画研究会(編) 臨床描画研究 I 金剛出版 pp.87—104.
- Leibowitz, M. (1999). *Interpreting projective drawings : A self psychological approach* 菊池道子・溝口純二 (訳) (2003) . 投影描画法の解釈 誠心書房
- Machover, K. (1949). *Personality projection in the drawing of the human figure*. 深田尚彦 (訳) (1998). 人物画への性格投影 描画心理学双書 1 黎明書房

Appendix 感情描画記入シート

____年 ____月 ____日
(男・女)



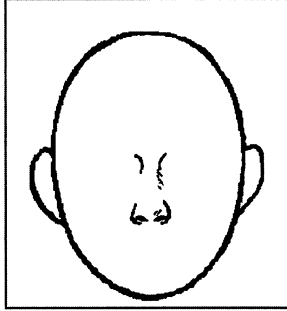
顔の輪をかいてください。

次の①、②、③、④の顔の輪には 目・口・まゆが かかれていません。

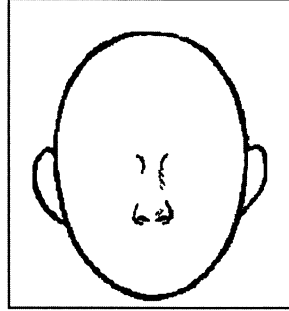
それぞれの 気持ちの顔になるように ボールペンで 目・口・まゆ をかいてください。

かくときには となりの 友達のものもを みないようにしてください。

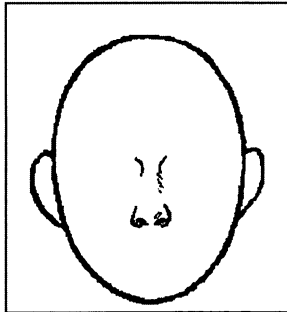
①「楽しい・うれしい」ときの顔は？



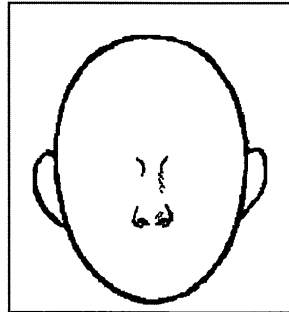
②「かなしい」ときの顔は？



③「おこっている」ときの顔は？



④「がまんしている」ときの顔は？



これでおわりです。ご協力ありがとうございました。